

# 一丁目通信

2018年 3月 10 3号

## Arts-eihan

発行: 株式会社アーツエイハン

WEB: <http://eihan.com> Mail: [info@eihan.com](mailto:info@eihan.com)  
〒160-0022

東京都新宿区新宿1-18-13 協建新宿一丁目ビル  
電話: 03-3355-1241 FAX: 03-5362-9325

3月にはいと雪解けと同時に  
季節は本格的な春に。  
人も会社もちょっと成長して  
いかなければならない時期

代表取締役 飯塚吉純



第34回 流通情報システム総合展

## リテールテック JAPAN 2018

代表 飯塚 吉純

関連会社の顔認識システム開発のエイコム株式会社が、本年もリテールテック JAPAN に出展致します。従来の顔認識機能のデモだけでなく、新サービスとして多拠点の顔認識機能付きデジタルサイネージの遠隔管理を可能にした業界初の顔認識機能付き CMS (コンテンツマネージメントシステム) や、アパレル向けのマーケティングの分析に活用可能な、顔認識機能付きマネキン (参考出品) などを展示致します。

本年は本格的に顔認識マーケティングを普及させるべき、昨年以上に積極的に Beesight のデモや展示を行ってまいりたいと思います。ご招待券を同封しておりますので、是非東京ビッグサイトへお越しくださいませ。

2018年3月6日(火)～9日(金)

10:00-17:00(最終日は16:30まで)

東京ビッグサイト 東3ホール

小間番号: RT1705



招待状を封入しています!



前回の展示会の様子



展示予定のマネキン♪

# 顔認識の可能性

BeeSight の提供を通じて、顔認識のいろいろな可能性を目の当たりにしています。デジタルサイネージを見ている人の計測。を想定して作ってきたアプリケーションですが、展示会などで、色々な方に見ていただくたびに、新しいご意見をいただきます。

- ・ 通路を通過する人数が計測したい
- ・ 感情計測をヘルスケアに利用できないか
- ・ 困っている人を計測できないか
- ・ 映像の中の何に特に興味があるか、視線から判定したい などなど、...

## BeeSight



出来ること、現状では難しいこと、ありますが、毎回興味深くお話伺っています。

一度 BeeSight をご覧いただくと色々なアイデアが湧くようなので、まだご覧になっていないお客様はぜひ一度ご覧くださいませ！

## ご利益のある映画「バーフバリ 王の凱旋」

久しぶりに映画の感想を。年明けから強烈な体験をしました。「バーフバリ 王の凱旋」という映画なのですが、インド映画です。何本かインド映画らしい映画を見たことはありましたが、看過出来ないお祭りとしてバーフバリの名前が聞こえてきました。「王の凱旋」の前に「伝説誕生」という前編がありそちらを先に家で見たんですが、終わる頃にはすぐにでも後編である「王の凱旋」が観たくてたまらなくなり、上映している映画館を探していました。内容としてはインドにかつてあった架空の国に現れる王様の英雄譚です。観たことがあるような映画なんですけどどの映画にも似ていないような不思議な感想になってしまいます。とにかく面白いとしか言いようがありません。インタレスト（神話・信仰）であり、ファン（決めの画が濃い）であり、エキサイティング（戦闘）であり様々な「面白い」が当てはまる極彩色の映画体験でした。元気になります。

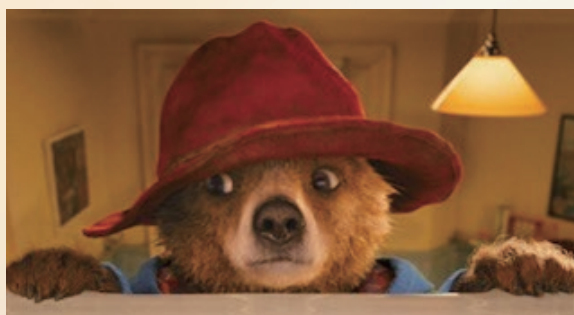
記事：映像チーム 佐藤 豊



### おすすめの映画

## 第8回 「ちょっぴりドジな愛嬌のあるクマさん、笑いあいのファミリー向けの物語！ -パディントン-

英国アカデミー賞作品賞（キッズ部門）、エンパイア賞作品賞（コメディ部門）、その他受賞



こんにちは。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は、家族と一緒に是非鑑賞して頂きたい実写映画を紹介したいと思います。ポール・キング監督、脚本によって制作された「パディントン」です（劇場公開2014年）。

この作品は、児童文学が原案となっており、子供から大人まで一緒に鑑賞して楽しめるコミカルな内容になっています。ロンドンを舞台に、主人公であるクマ（以下パディントン）が、ある親切な一家に拾われるところから物語が始まります。そして都会の生活に慣れていないパディントンは、周囲にハプニングを起こしてしまいます。真摯に

一生懸命取り組みながらも、最後にはハプニングを巻き起こしてしまうドジなところが見所です。

観点を少し変えて見ると、愛らしい仕草や憎めない表情を表現する今のCGの技術はすごいなと感心しました。そして現在映画館では、「パディントン2」が公開されています。こちらはまだ鑑賞していないのですが、きっと1作目同様に、愛らしく、面白可笑しいシーン満載でしょう！気になった方は、是非観賞してみてください！！

記事：映像チーム 平井 慶太